テーマ名 **統廃合になった学校施設を利用した ESD実践プログラム**

チーム名：環境教育・環境学習

メンバー：片岡 謙真、立松 昌朗、田邉 敦、平島 啓司、宮島 伸子

アドバイザリー講師：石井 陽祐、奥岡 桂次郎、羽田 裕、福澤 和久

現状の把握

環境教育の現状

◆内容　環境保全に集中、ビジネス意識の欠如、魅力不足(未来や就職に役立たない)

◆場所　少子化により進む学校統廃合・地域力の低下

◆教育者　教員不足・予算不足
環境×経済を教える人材不足

週間東洋経済2022年7月23日より

小中高等学校の統廃合の現状と課題　文部科学省

20年後に向けた提言の概要

経済観念と発想力を備えた、
環境問題をビジネスとして解決する
ビジネスリーダーの育成

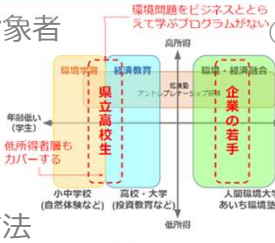
◆持続可能な社会のための、経済活動と環境保全の両立

◆環境ビジネスは、世界規模の大きなビジネスチャンス

提案の内容

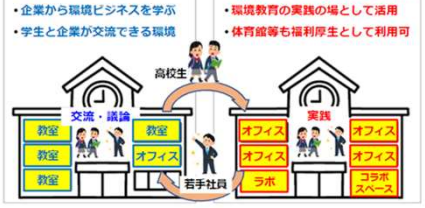
統廃合になった学校で行う、学生と企業が共に学ぶ環境ビジネスプログラム

①対象者



②フィールド

③方法



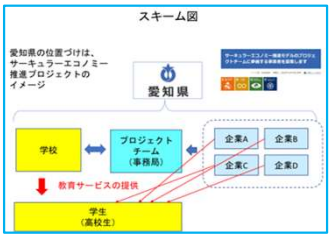
①県立高校生(低所得者層)のカバー及び、企業の若手社員

②統廃合になった県立高校の統合・廃校両方の校舎

③学生(統合校舎側)と若手社員(廃校舎側)の環境ビジネスの実践的交流・授業

提案実現のための具体的な取組(アクションプラン)と実現可能性

④実施者



⑤アクション例

⑥ タイムテーブル

STEP1(課外活動)

STEP2(外部講師として授業の一部を担う)

STEP3(企業人による新しい授業科目の創設)

	STEP1 2023-2025	STEP2 2026-2027	STEP3 2028～
	パイロットケースとして、いくつかの地域で実施		県全域に展開
統合校	・企業誘致・選定 ・授業後の課外活動として企業が参加	既存授業の一部に企業が外部講師として参加	企業人が本格的に参画して新しい授業科目を作る
廃校(都市・中山間地)	・企業誘致・選定 ・インフラ整備	・オフィス・フィールドとしての運用開始 ・統合校と交流開始	県全域で廃校利用オフィス・フィールドをネットワーク化
その他アクション	検証実施	・検証実施 ・文科省へ企画提出	文科省の認可取得

波及効果

学校	学生	キャリア教育・企業家マインド醸成
	教師	負担軽減・リスキリング(知識向上)
企業	若手社員	キャリア教育(教えることで自らも学ぶ)
	経営者	市場/ニーズ/アイデア獲得・福利厚生の向上
地域社会	地域活性化・コミュニティビジネスの創出	

◆モデルケースとして
農商工のバランスが良い愛知から、日本全体へ

◆不登校対策
既存の学校生活に馴染めない子にとって、違う世界の発見へ